

## 中学校・道徳の内容項目の解説

# 愛校心

### ●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。	愛校心

### ●解説

全体的な理解	学級や学校にあつては、生徒一人一人がその役割と責任を果たすことや、教師や学校の人々によって、学級や学校で様々な指導を受けたり支えられたりしながら、人間関係を深め、協力して生活することを通して尊敬や感謝の気持ちがはぐくまれる。また、学校には、それぞれ独自の校風があるが、それは先輩たちの長年にわたる努力によって培われたものであり、後輩たちが、それを継承し、更に協力し合って、よりよい校風へと発展させてきたのである。
発達的な観点	中学生にとって、生活の大半を過ごす学級や学校が、重要な生活の場となっている。したがって、自分の学級、自分たちの学校という愛着や誇りをもつことは大切なことである。しかし、自分の学級や学校への関心やよりよい学級や学校づくりへの意欲は、必ずしも十分とはいえない。更に、昨今の学級や学校における状況を見ると、教師や学校の人々への敬愛の情が厚いとは言いがたい。そこで、学級や学校における教師や学校の人々に目を向け、感謝や尊敬の気持ちをもてるようになることは、人間としての成長を促すこととなる。
指導の着眼点	学級担任や各教科の教師の指導のもとに、授業やいろいろな活動に意欲的に取り組むには、生徒同士、生徒と教師や学校の人々が、互いに信頼関係をもち、敬愛の念を深める態度を育てることが大切である。そのことによって協力体制が整い、よりよい学級や学校生活への土台が築かれる。学校の歴史や伝統に接する機会を増やしたり、生徒同士、生徒と教師や学校の人々との人間関係を深めたりする様々な体験を通して生徒に学校に対する愛着やよりよい校風の樹立と発展に努める態度を育てるよう援助する必要がある。なお、こうした指導の根底には、教師自らが進んで生徒一人一人に向ける厚い信頼と深い愛情に裏打ちされた温かいまなざしと慈しみのある態度で接していくことが欠かせない。

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

### ■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。	愛校心
中学年	(4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。	愛校心
高学年	(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	愛校心